



男女平等に関する市民意識・実態調査の報告

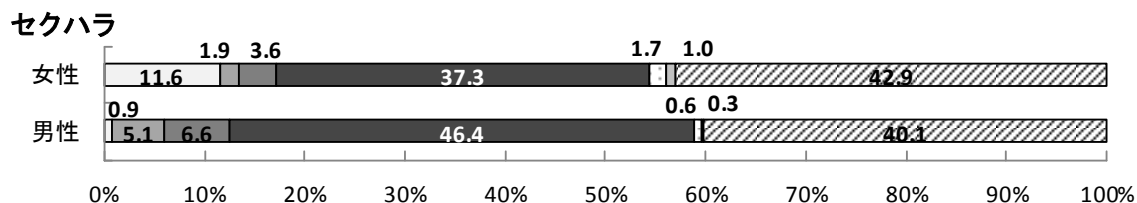
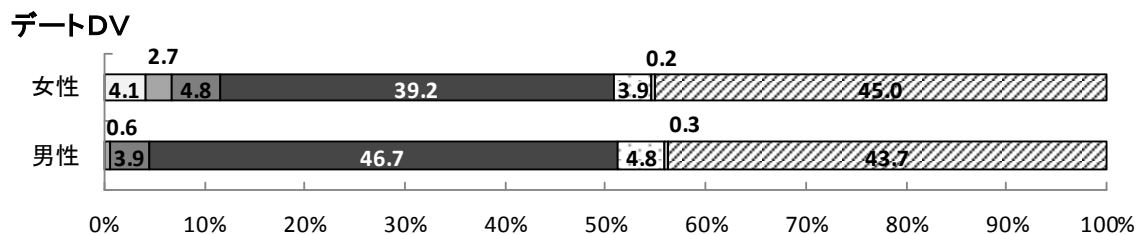
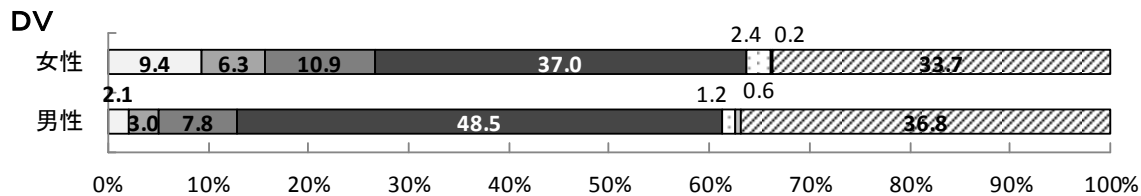
平成 24 年 10 月に実施した標記調査につきまして、調査項目ごとに結果概要をお知らせします。
今回は、「人権について」です。

【DV、デートDV、セクシュアル・ハラスメントについて】

- DV、デートDV、セクハラそれぞれについて、身近で見聞きしたことがあるかという質問には、いずれも 4～5 割の人が「身近に被害を受けた人はいない」と回答していますが、DV については 9.4% の女性が、デートDV については 4.1% の女性が、セクハラについては 11.6% の女性が「自分が直接被害を受けたことがある」と回答しています。前回の調査と比較すると、DV については 13 ポイント、セクハラについては 2 ポイント下回る結果となっています（デートDV については前回調査の項目に入っていない）。

問 あなたは DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者などからの暴力）、デートDV（若者の間で交際相手からふるわれる暴力）やセクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について身近で見聞きしたことがありますか。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 自分が直接被害を受けたことがある | <input type="checkbox"/> 相談を受けたことがある |
| <input type="checkbox"/> 被害を受けた人を知っている | <input type="checkbox"/> 身近に被害を受けた人はいない |
| <input type="checkbox"/> 言葉自体を知らない | <input type="checkbox"/> 自分が加害者になったことがある |
| <input type="checkbox"/> 無回答 | |



- 被害にあったときどこ（誰）に相談するか聞いたところ、全体的にみると「家族」が 41.5%、「友人・知人」が 37.1%、「公的な相談機関」が 31.0%、「警察、弁護士」が 26.4% となっています。

【裏面へ続く】

